

なぜ大学が 地域社会の歴史の継承に 協力するのか？

地域の歴史文化資料は、その土地の成り立ちを知り、これからの考えるための道しるべとなるものであり、地域社会の長期的、持続的発展に欠かせません。大災害から地域の資料を救い出し、継承していく取り組みは、阪神・淡路大震災をきっかけに立ち上がった神戸の「歴史資料ネットワーク」を先駆けとして、全国各地に普及しつつあります。

しかし、地域の資料を継承していく方法は、まだ制度的にも技術的にも確立していません。また災害の増加にともない、被災資料の保全（資料レスキュー）はますます大きな課題となっています。

これまでの取り組みに加え、地域で実行可能な資料継承手法の開発普及や、緊急時の相互支援体制の強化が不可欠です。そして、これらは高度な研究開発力と広汎な人的ネットワークが前提となります。

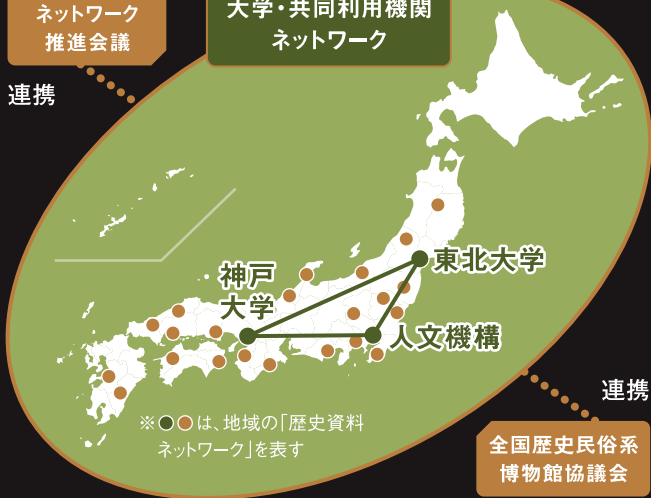
次の時代へ地域の歴史文化を伝えるために、大学の力が必要となる理由はまさにここにあります。そのため、私たちは全国規模の大学による資料保全ネットワークを立ち上げようとしています。

人間文化研究機構・東北大学・神戸大学を拠点とし、資料所在情報の把握・データ記録化・相互レスキュー支援体制の構築・教育プログラムの開発・国際的な情報発信を行なっています。

文化遺産防災
ネットワーク
推進会議

歴史文化資料保全の
大学・共同利用機関
ネットワーク

連携



連携

全国歴史民俗系
博物館協議会

◆ ネットワーク事業からのお願い ◆



私たちは、大学による歴史文化資料の保全ネットワークを組織し、資料所在情報をデータ化することで、その研究資源化や被災資料の保全、地域史研究の市民への還元といった、地域連携にかかる諸課題に対する知見の共有や教育、地域連携の実践をめざしています。

また、それらのバックアップを用意し、恒常的なネットワーク体制を作り上げることで、災害時の資料保全（資料レスキュー）に対する迅速な支援体制を構築しようとしています。

資料や地域史を通じた学術的な地域連携をめざし、このネットワークは活動を続けてまいります。多くみなさまのご協力・連携をお願いいたします。

〒285-8502 千葉県佐倉市内町117
国立歴史民俗博物館内資料保全ネット事務局
[tel] 043(486)4225
[mail] pres-network@rekihaku.ac.jp
[web] <http://pres-network.jp/>

2018.09



歴史文化資料保全の 大学・共同利用機関 ネットワーク事業

— 歴史がむすぶ地域と大学 —

災害科学国際研究所
IRIDeS
International Research Institute of Disaster Science

大学共同利用機関法人 人間文化研究機構
国立歴史民俗博物館
National Museum of Japanese History



神戸大学大学院人文学研究科・文学部
Graduate School of Humanities and Faculty of Letters, Kobe University

◆◆ 地域歴史文化の継承と創成 ◆◆

「大学」が地域の歴史を通して地域社会を創成する

地域の大学を核とする歴史文化資料のネットワークをつなぐことで

1

所在情報を含む資料情報を全国的に把握し、歴史文化資料保全のための相互支援体制を確立します。

2

歴史文化研究分野における教育・人材育成とそのための環境・方法論を整備します。

3

地域社会における歴史文化の継承と創成に向けた大学の機能強化に貢献します。



教育プログラム開発・人材育成(学生/公開講座)
地域歴史文化の担い手の輩出(歴史的視野をもち活躍する人材)

災害時の資料保全体制の支援

地域の資料情報を用いた歴史文化研究
展示等、研究成果を可視化して還元
地域社会のグランドデザインへのヒント

共同開発・共同実施
アクティブラーニング向け施設の提供

資料保全の実地支援
資料情報に基づく助言

資料情報の提供(バックアップ)

資料情報の共同利用システムを公開
地域歴史文化の研究基盤構築を支援

地域の大学(地域社会の知的中核)



歴史文化資料保全の大学・共同利用機関ネットワーク

文化遺産防災ネットワーク推進会議

全国歴史民俗系博物館協議会